

24/1/16 石垣部会
名古屋市民オンブズマンによるメモ

写真撮影は開会から出席者紹介まで
その後録音・録画禁止

10:00

岡田保存整備室長：はじめる

上田所長：年度明け忙しい中ありがとう
文化庁 渋谷、中井 ありがとう
元旦 能登半島地震 大きな被害
名古屋市も被災地七尾市中心職員派遣
避難所運営、消防関係派遣 微力
名古屋城総合事務所も1名派遣
心からお見舞い申し上げます
名古屋城は被害発生していない
2題 水堀、石垣カルテ
本年度3か月を切った
着実に事業進めてきた

岡田：北垣、赤羽、宮武、西形、梶原、尾崎
リモート 渋谷、中井
写真、ビデオ撮影はこれまで
資料の確認

北垣：議題1説明を

名古屋城：水堀遺構発掘

10:17

名古屋城：発掘調査説明
令和8年度末までに行う必要あり
図11立面図
発掘調査と積みなおし位置が近づくと危険 早くしないと

10:23

北垣：意見を

宮武：南蛮たたき 名称珍しい

名古屋城：金城温故録 名称出てくる 不明
南蛮練堀 なぜその名称？不明

宮武：図3 この下に敷かれているのが南蛮たたき？

名古屋城：底面に南蛮たたき

名古屋城：敷石のようなもの

宮武：自然石ではなく加工石？土間のようなもの
先週山口市萩藩干拓 18世紀-幕末 国史跡 干拓遺跡
南蛮干 石組みの水路
床が同じ
切り石を通水路に敷いて、水が洗掘しないように
床調査 復元計画
同じような共通性？
堀の南波止場 仮設道路撤去？

名古屋城：令和8年度末

岡田：真ん中くらい
段数があがると上から降ろす
撤去時期 未定

宮武：仮設道路の下敷きが大部分
撤去しないとわからない
撤去のタイミング 2段階でやらないと
表1 うまいことはまるか
2つ要望 舟運 既存の設備利用して？
→大変重要なステージ
舟運 活用様式を歴史的事実 調査研究して堀の歴史的機能再現
素晴らしい
日本の城ではほとんどない

部会で視察したことがない
現地視察くらいセッティングを
資料 4 ページ図 1
北波止場、御次波止場
7 ページ図 1 蓮池とつながっている
白抜きではわからない
名城公園の下敷きになっている
蓮池とワンセットで楽しむ
北の再現
名城公園の再整備 ここも調査
当時のものが地下から見つかれば、壮大な水の遊び
セットで出して

村瀬副センター長：7 ページ右下
樋の両側、石組、底共に南蛮たたき

宮武：想像 切り石、構造物
従来の積み石ではなく、細工が主流の石造構造物
精緻さで南蛮？

北垣：宮武先生 壮大な話がでた
そういうことを思っていた
南蛮たたきは知らない 南蛮干 新田開発
各地で元禄段階新田 2 倍
備前、熊本八代新田、石橋
切り石の技術
名古屋でやっている城郭石垣 石を積む技能者
→どこかで変わっていく
新田開発総合技術 切り石のスタイルが変わってくる
我が国の伝統的な技術 城に表れてきている
どこまでやっていくか

赤羽：辰之口
金城温故録以降、かなり行われている
黒川 北から南へ 堀川浄化
キーポイントが辰之口
改変が加えられている

明治 調査する必要
面白い場所 ややこしい

北垣：ほか

梶原：南波止場 いつ頃設置された？

名古屋城：南波止場 成立時期記録確認できていない
利用するには図6 埋門とセット わかっていない
元禄10年絵図にはある
二の丸御殿がないと
慶長期ではなく元和期かそれ以降

梶原：それも含めて発掘調査するという理解か

名古屋城：そう

宮武：調査するにあたって、イメージできるか？

仮設道路前思い出せていない
単純に石段 護岸や雁木
舟を上にはあげられない
東の端っこに
全国的な事例を集めてイメージを 松本城月見櫓の下 石段
人吉城 球磨川と直結 たたき石スロープ
和歌山城 堀に降りる石段 改善？
どれがストライクなのかイメージしてほらないとわからなくなる

名古屋城：こういった遺構の可能性

図11 黒く塗った過去の調査区 根石の調査
当時根石と考えた 図11 立面図 深いところ 胴木が出てきた
栗石検出 礫敷？
船は基本的に北側につなげた 停船するには舟付き遺構の可能性
図10 石垣面 水面は低く設定 辰之口 南蛮たたき レベル3.7 当時4m弱
上端4.2くらい かなり近いところまで水が来ていたのでは

赤羽：波止場の説明

広い目で見ると、埋門 全体調査しないと構造・機構がわかりにくい

半分だけではなく全部

「仮設道路を使おう」今は有用
終わったら撤去 その後どう調査するかが重要
同じ場所を何回も調査するのはやめて

北垣：議論も多く、細かいところだけやってもそれでは難しそう
全体的な計画を立て直すほうが、将来の名古屋城解明するには必要では
出てくるものが名古屋城時代 新田開発 全国やっている話も
技術なんか十分反映される
事務局でもう一度見直し 本題に入って
市民の皆さんも喜んでくださるような大きな課題
時間もお金も限られる よくよくわけて考えていく必要がある

村木：できるところは部分的にならざるを得ない
試掘 トレンチできる
その先のことはさらに考えたい
「トレンチ状に掘る前に、全体を考えて」指摘でいいか

赤羽：そう 掘るなというわけではなく、大事なところ
埋門 どういうルート 市民も関心を持っている
調査の段取り 仮設の通路前提調査ではなく、撤去した後
埋門、波止場全体調査を
これから工法を検討して

名古屋城：今の部分 今後広い範囲を検討する中
特性 水と接していて、湧水
石段がどのレベルまであるのか 石敷きならポンプ
それ以下 矢板や別の方法
不確定 範囲が限定なら大型土嚢など水がせき止められる
遺構がどのレベルか 基本的情報

宮武：欠落している部分 見えなくなっている部分が多い
形状、保護する のちのち転石保全
現存状況把握する必要
ポンプも充実 汲みだし機械 利点がある
ここで全体像把握ではなく、トレンチとしての保全試掘
環境的によい やむを得ない

全部裸にするのはむちゃ

北垣：話が多岐にわたる

事務局で全体でどういう方向でどうしたいか

現実的な部分 わけて考えて

赤羽先生考え方は、全体整備にかかわってくる大きな課題

今の議題集約 材料得られたと思う

この件はこの方向で進めていただく

岡田：11時半まで部会で、その後搦め手馬出視察を

北垣：トイレ休憩の方は各自でて行って

石垣カルテ

11:01

三橋：調査研究センター

平成29年度から、すべての石垣で石垣カルテ作成している

プロジェクター 基礎情報を記載

隅角、築石、変状等も記載

オルソ図に記載

1頁表1 進捗状況 主要終わる 令和7年度に終わる予定

城内石垣全体の保存方針を検討

石垣現況について

・個別の変状 4ページ図5 5ページ図6 6ページ図7

・石垣面の変状 7ページ図8 8ページ図9 9ページ図10 10ページ図11

・後世の改変による変状 11ページ図12 12ページ図13

把握されつつある

保存方針の策定 位置づけ1ページ図1

石垣保存の基本的な考え方に基づき

今年度までまとめ作業

来年度 各石垣に沿った保存方針を策定したい

11:10

北垣：意見を

宮武：ここから先が大変

石垣カルテ 本来の機能

昭和 63 年肥前名護屋城 集中豪雨で民家に倒壊
復元する根拠がない | 面 | 面カード化した
基礎資料 北垣先生が「石垣カルテ」と命名
モニタリングのための台帳
「安心して何もしない」のがほとんど
大変だが、これに書き込んでいかないといけない
保存方向 運用の形をどうするか
広大な名古屋城の石垣のチェック 壮大なマンパワー
島原城、佐伯城 石垣カルテ 行政ではなく守る会、歴史愛好会
市民参加型で見定めていこう
江戸時代「何番石垣は〇〇家」
市民と一緒に守り抜く
| 頁 右ウ 後世の改変による変状
来週姫路 城郭石垣研究会
七尾 能登大震災 金沢城崩壊石垣
明治以降の石垣
熊本 明治以降
仙台城も明治以降
近現代石垣 疑問符がついている
警戒 江戸時代の石垣も
明治以降石垣 いち早く色分けして別に把握する必要があるのでは
導線、入場者 たびたび通過 考えないと
構造上の弱さ
10 年以上続く震災

北垣：大変貴重な指摘
委員の先生意見を

西形：石垣カルテ完成予定
宮武先生から カルテ作ってからが大変
石垣の目視による判定 基準をもってやる
その辺のデータを見せて
結果に基づいてまずは石垣の安全対策
・見学者の方被害及ばないように
・石垣そのものの対策
早い時期に検討に入って 必須条件
文化庁 今年度診断マニュアル案出てくると思う

石垣保全対策を

「近現代の石垣がなぜ壊れるのか？」

積みなおしたところは不連続 ごまかし

そろそろ金沢城 なぜなのか調べる必要がある

構造的に何が違うのか

石の控えが短い？経時的に強くなっていく？

工学的に難しく面白い

検討が可能ならぜひカルテに加えて

カルテの実用化に向けて

北垣：これからの全国の城郭石垣 抱える課題

急にえらいこっちゃ できることではない

できるところから実践していく

まず当たり前のことを当たり前にするにはどうすればいいか

チェックしていく

村木：カルテ 部会継続的に議題として出す

ある段階 実際石垣も見たい

宮武：全部で何面？

名古屋城：覚えていない

村木：400 面

宮武：1 人で見ると 500 年

西形：オルソは 3D？

名古屋城：そう

西形：3D計測は？

名古屋城：城内ほぼ全て終わっている

3 の丸点在石垣くらい

西形：問題点 3Dデータ管理されている

見たいときは見れる？

名古屋城：3Dデータ 写真で納品
必要に応じてセンターで処理

西形：この断面見たい、で見れるか？

名古屋城：荒い制度だが見れる

宮武：客観的に見れるデータはそろった
城内の見学者の日常的通過導線をかけて
場合によっては人がいかない、頻繁に人がいくところ
エビデンス 回避させたりどうこうする
導線にあわせたレイヤーを出して

北垣：ほかは

これから具体的な活用法 一番肝心
それぞれの城が持っている自治体でどう活用していくか
城城によって変わってくる
一般的に変わらない問題も 導線 人を城内に入れる 変わらない
どうしても見てほしい それぞれ持っている
名古屋ではどうするのか
時間が来ている いかがでしょうか 言っておきたい

尾崎：愛知県文化財室

カルテ 一般利用
名古屋城多くの人利用 来る場所
一般的に人が通る場所 崩れないように保全
早急にやる必要がある 取り組んで

西垣：座長がおっしゃったのは重要

文化庁もリモート参加 耐震マニュアル 石垣保全のための方法
ベースにしないといけない
そのあとはそれぞれの城の方針もって
手順を見ると、それぞれの城で問題が出る
マニュアルベース どう判断するかは城に任されている

北垣：文化庁も参加していただいている

中井：2点

水堀 目的と調査するところ 腑に落ちないところ

船を浮かべさせる 西側やります

調査は辰ノ口と南波止場

舟と関係ない？

将来的東側 これに向けて 将来的？

それによってはどこまで調査を拡大して？

何が目的で調査エリア設定するのか？

全体の計画でどこまでどう調査するか

今やらないといけない調査なのか

カルテ 先生方の意見同意

完成ではなくスタート

どう活用するか 充実するかが重要

人の動き 導線との関係 人が歩くところ 対応が変わってくる

導線自体も見直して

渋谷：活発な議論ありがとう

石垣カルテ 先生おっしゃる通り これからがスタート

名古屋城としての運用の仕方

規模の大きい城郭 きちんと保護して

舟運 当初から大きな話 南蛮 他の史跡見ないといけない

私も勉強させていただいた

水堀舟運 波止場関係遺構どうみていくか

今回どこまで何を見るか ある程度方針示さないといけない

北垣：ありがとう

意見あらかたいただいた 次の会議へ回して

岡田：ありがとう

水堀 他城郭確認しながら進めたい

石垣カルテ 安全と石垣保全 バランスをとりながら進めたい

今後とも活発な議論を

以上で終わり

11:38

搦め手馬出現場視察を